

ほんとう

すがた

10月9日（木）本当の姿

^{うえまつつとむ}
植松 努 ^{ひと}さんという人がいます。ロケット
の^う打ち^あ上げ^{かい}開発^{はつ}をしている^{ひと}人です。その^{うえまつ}植松
さんが、^{ほん}本^{なか}の中で、とても^{すてき}素敵な話を^{して}してい
たので^{しょうかい}紹介します。ぜひ、^よ読んで^{くだ}下さい。



はいはいを^{そつぎょう}卒業して、^たつかまり立ちを
^{はじ}始めた^{あか}赤ちゃんは、^{じぶん}自分の^い意思^しで^{ある}歩こうとする。当然だが、
^{ある}うまく歩けない。よちよちと^{いっ}歩^ぽ踏み^ふ出したとたん、^だ転ぶ。
これは^{あき}明らかな^{だれ}失敗だ。誰でもできる「^{ある}歩く」という^{どうさ}動作が、
まともにできないのだから。でも、^{あか}赤ちゃんは^{ころ}転んだ^{じぶん}自分を、
「^{わる}かっこ悪い」と^は恥ずかしがったりしない。

「^{じぶん}どうせ自分は^{さいのう}才能がない」とがっかりもしない。「^{ある}歩くの
は向いていないから、やめよう」と^{あき}あきらめたりもしない。
^{あたま}頭からどてっと、^は派手に^{ころ}転んだ^{あか}赤ちゃんも^た立ち上がり、^あ**何度**
^{ある}**でも**歩こうとする。

これが^{ぼく}僕たちの^{ほんらい}本来の^{すがた}姿だ。^{きみ}君の^{すがた}も^{もと}もとの^{すがた}姿だ。

^{しっぱい}失敗してあきらめたり、^{しっぱい}失敗がいやだから^{さいしよ}最初からやらな
かったりしたら、^{ほんらい}本来の^{じぶん}自分が^{かわい}かわいそうですね。^{みな}皆さんは、
^{おも}どう思いますか？

村越 新